

第20回全日本インドiakトーナメント大会 笠原チームが第3位入賞



インドiakの国内最高峰競技大会「第20回全日本インドiakトーナメント大会」男子の部に、多治見市インドiak協会所属の笠原チームが出場しました。

予選リーグは地区予選を勝ち抜いたチームが2リーグに分かれて戦い、全試合の総得失点差で競います。大倉友行さん、粥川洋幸さん、中岡裕喜さん、小谷英二さん、林玲央さんの笠原チームは予選リーグを2位で通過し、決勝トーナメントに進みました。

決勝トーナメントでは、静岡県代表に惜しくも敗れましたが、見事3位に入賞しました。ふたを開けてみれば東海北陸ブロックの1～3位がそのまま全国の1～3位を占めており、東海北陸地区におけるインドiakのレベルの高さを物語る結果でした。

渡辺紘吉監督は「このメンバーで初の全国大会だったので選手がかなり緊張しており、初戦の1セット目を落としてしまいました。そこで『落ち着いていつもやっていることをやろう』と話し、そこからチームを立て直すことができました。まさか3位になるとは思わず、とても良い体験でした」と大会を振り返っていました。



2025日本ベテランズ 国際柔道大会(マスターズ) 渡邊さんが第3位入賞

6月に開催された「2025日本ベテランズ国際柔道大会(第19回日本マスターズ柔道大会)」M6区分66kg級において、渡邊耕二郎さんが第3位に入賞されました。普段は多治見市柔道協会の指導者として活躍しており、子どもたちからは「渡邊先生!」と親しまれています。今回は子どもへの指導の合間に、お話を伺いました。

第3位入賞おめでとうございます。どのような試合展開でしたか。



準決勝は、試合序盤に巴投げを受けてひやりとしました。体側から着地して逃れましたが、試合終盤は、体力が続かず組んでいるのがやっとの状況でした。多くの課題が残る結果でしたので、来年に向けて体作りからしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

いつまでも現役でいられるように心掛けていることはありますか。

年齢とともに回復に掛かる時間が長くなっているので、オーバートレーニングにならないように、また栄養と睡眠、休息をしっかりとするよう日々のコンディショニングを心がけています。

マスターズ大会への出場を続けていらっしゃいますが、出場し続けることへのモチベーションは何ですか。

大会出場を目標にすることで自分を律することができますし、

大会を通じて世代を超えた仲間と交流できることもこの大会の魅力かと思います。

また、私が柔道を始めたのは社会人になってからです。試合に出ることで子どもたちの気持ちを理解したいと思っています。子どもたちを指導するためにも、同じ目線で立ち続けたいです。

子どもの気持ちを理解できる指導者、というスタンスは素晴らしいですね。ぜひ柔道をする子どもたちにメッセージをお願いします。

柔道の修行を通じて、まずは自分が心身ともに強くなって、最終的には強くて思いやりのある優しい大人になってほしいと思います。



奥村さん、水野さんが 全国中学生弓道大会に2年連続出場!



「第22回岐阜県中学生弓道選手権(兼)全国中学生弓道大会岐阜県予選会」で奥村蓮到さん(陶都中学校3年)、水野日菜さん(同)が好成績を得、2年連続で全国大会への切符を手にしました。お2人に、弓道の魅力などについて話を聞きました。

2年連続の全国大会出場、おめでとうございます。県予選を振り返っていかがでしたか。

奥村: 一緒に戦った相手とのコミュニケーションを増やすことができたので、リラックスして臨めました。結果、昨年よりの中が増えたので良かったと思います。

水野: 今年は団体戦も挑戦しました。仲間や相手とのコミュニケーションの大切さを感じることができました。実力を出し切ることができたと思います。

普段の練習は弓道連盟の大人のみなさんと一緒におこなっていますが、どんな雰囲気ですか。

奥村: 家族のように優しく、いろいろ教えてもらえるので、年の差を感じずに自然に練習できる環境です。

水野: みんなとても優しく、温かい場所だと思います。私たちは教えることは得意ではないけれど、下の子が入ってきたら同じように接したいと思っています。

自分にとっての弓道の魅力を教えてください。

奥村: 弓道を始めて一番得たものは、集中力がついたことです。人の目を気にすることもなくなったし、礼儀作法も身について私生活にもプラスに働いています。家族も応援してくれて、嬉しいです。

水野: 他の人と競うけれど自分との戦い、という感じが好きです。集中して自分の世界に入れることが魅力です。私も家族が応援してくれますし、進学しても続けたいです。

